



れんこんのハンバーグ

<約3人分>

<材料>

- ・豚ひき肉 150g
- ・卵白 1個分
- ・れんこんをすりおろし 小1/2節 (約100g)
- ・長袖みじん切り 1/2本分
- ・サラダ油 (焼く時) 適宜
- ・パン粉 (つなぎ) 適宜
- ・塩コショウ (味付け) 適宜

材料をよく混ぜて俵型に成型します。

フライパンに油をひき、表面がきつね色になるまでよく焼きます。

ポン酢、つゆの素、ソースなど好きなものをかけて召し上がれ。

数独

						3	2
	6	5	7			9	1
	7		8		9	6	
	8	2	1		7	9	
		6	4		3	5	8
		7	5		4		2
4	5				6	3	7
1	2						

遊び方

空いてるマスに1~9までの数字のどれかをいれます。縦・横、9列3x3のブロックが9あります。

お願い

情報をお寄せ下さい。ミニコミ誌づくりに興味のある方、一緒に境町の情報発信しませんか？

手弁当ですが、ワイワイ、ガヤガヤと楽しみましょう。協賛、カンパもぜひ、ぜひよろしくお願いします。(S)

創刊にあたって ~ 境町のみなさまへ ~

「きんもくせい」をご覧いただきありがとうございます。

「モクセイ」はオレンジ色の小さな花を無数に咲かせます。とてもよい香りがします。“太陽と緑と文化のかおる田園都市づくりを目ざす境町にふさわしい”<境町公式HPより>と1988年に境町の木に制定されました。花言葉は「謙虚・真実・変わらぬ魅力」です。とてもステキな言葉ですね！

私たちは境町の誇りである「素晴らしい自然環境や豊かな農産物、魅力的な人々やサークル、又、案外と知られていない歴史、そして名物や名店等」を伝えていきたいと考えています。「境町のここが好き」と胸を張り、声を大にして子供たちにも教えてあげましょう。

「恋の関宿、情けの境」なんて言葉もあります。何だか艶っぽい話にも聞こえるけど実は違っていたり？…そんな町の面白情報や真面目なニュース、時には「なぜ？」について考えてみるのもおもしろいですね。「境町には銀行が多いけど何故？」とか、「こんな楽しい人いるよ」などなど…ご存じの境町のステキな〇〇情報をこの「きんもくせい」にお寄せください。どうぞよろしくお願ひします！

投稿 ~ 母として思うこと ~

母親になって10年以上が経ちました。

三人の子供を育てながら、学んだことが沢山あります。最初の数年間は分からない事だらけ。育児書を見たり、先輩たち、専門家たちの意見を聞いたりしながら、「〇〇とは△△なものだ。」という公式や常識を素直に信じて、その通りに振る舞うのが精いっぱい。それらの情報に疑問を感じる暇は殆どありませんでした。それから何年か過ぎ、少しゆとりができた時、子供たちの置かれている状況を冷静に観察しました。

昔の子供と今の子供を比べた時、今の子供たちはどう変わったのだろうか？物事が全て時と共に進歩しているのであれば、子供たちは良い状態で良い環境の中暮らしているはずですが、そんな思いで観察してみると、実際は正反対だという事に気付きます。色々な種類の食べ物が豊富に提供されているけれど、中身は化学調味料やその他添加物などの薬品だらけ。外を歩けば危険な事件に巻き込まれるし、便利だけれど危険性も秘めたツールが溢れています。アレルギーの子供たちもいっばいで、発達障害と診断される子供たちも増加傾向。子供たちの置かれている環境は、実際良くなるどころか悪化しているのです。効率性重視、経済成長…それらのものと反比例して、子供たちの状況が悪化しているのであれば、方向性が間違っているのでは？と思わずにはいられません。

これからの未来を担うのは子供たち。子供たちを守らなければ、効率も経済も…意味をなさないはずですから。今の子育てマニュアルには便利なものが沢山で、昔に比べ楽になったのかもしれませんが、それは大人のエゴからくるものだと思います。便利さと引き換えにしているものが、可愛い子供たちの未来だとしたら、そろそろ大人たちは物事の根幹について考え直さなければなりません。

今、大事にしなければならないことは、効率？経済？それとももっと大事なものが隠れている？

子供たちの笑顔を思い浮かべながら、考え続ける大人でありたいと感じています。(Yumi. K)

何の伝手もなくこちら境の染谷に在住して、早34年目になります。「お陰さまで」としか言いようがありません(ペコリ)。 やっとお知り合いもできて茨城県民らしくなってきたかな?

主人が松原団地の砂場～上野のやぶ蕎麦へと長～い修行と苦勞ののち、念願の店を持つ事ができました。

何はなくとも「美味しかった!!」と言って頂ける自信があります。“何がなんでも百年”を目標に「イヨ! 老舗!」と呼んでいただけるようつとめて参ります。よろしく願いいたします。

そのためにも商売大好きなお嫁さん(2代目の)を大募集しております。家付き、car付き、お店付きです。素敵な方、たった一名で結構ですヨ。

是非、女性が集う店でありたいとも思ってメニューの工夫もしています。例えば…イソフラボンいっぱいの手作り豆腐やビッグな厚焼き卵は人気の品です。両方が食べられる万葉セットは集まりの席にピッタリです。

暑い日は冷したぬき、寒い時は特製鍋焼きが看板メニューですが、季節の天ぷらにも力をいれて、ヒットしていますよ。春にはタラの芽、ウド。夏には色とりどりのパプリカやゴーヤ。秋には松茸と牡蠣。そして冬には、アンコウや白子など。旬の食材を使った天ぷら付きの蕎麦やうどんをお楽しみください。是非一度、お味見にいらして下さいね。お待ちしております。お電話にてご予約大歓迎!



月曜定休日(祝日の場合は火曜日)、午前11時～午後3時、午後5時～9時
☎ 0280-87-7800 or 090-4541-5238

「蛇池」の大蛇伝説(長田地区字蛇池)

昔、村の貧しいお百姓が三人の娘を、江戸に奉公に出しました。その大事な奉公金を、江戸で遊びに使果たしてしまったお百姓は、「蛇池の大蛇が呑み込んだ」と言い訳をしました。それ以降、村人たちは何都合が悪くなると、それを大蛇の仕業にしました。

村人たちの悪事の責任を全て負わされるはめになった大蛇を哀れみ、正純法師が「十年間姿を隠し、説法で村人が心を入れ変えたら池に戻るよう」に頼みました。年月が過ぎ、大蛇は蛇池に戻ってきました。でも村人は全く変わっていませんでした。大蛇は恨みながら姿を消してしまいました。その後、改心した村人が池の辺に祠を建てて哀れな蛇を供養しました。というお話。

もう一つの伝説は、池の蛇を怖がる村人のために、十年の約束で印旛沼に越した大蛇が戻ってみると、証文代わりに水晶玉の「十」の上に「ノ」が書き加えられて千年になっていました。蛇は驚きましたが、仕方なくまた印旛沼に戻りました…とき。

どちらも蛇池の周りに茂る「椿の木・十年・気の毒な蛇」がキーワードのようです。…なんだか切ない話ですね。(かなりはしょってます。本編はWebサイトでどうぞ!)



オールドマーのつぶやき

先日、ある席で「歳をとってきて思うんだけど“実るほど、^{こうべ}頭を垂れる稲穂かな”っていう心境でいきたいね」と言ったら、ある人が「頭をたれるほど実が熟していない人もいるからね。中身がないと稲だつて立ったままだよ」と言った。確かに、年齢を重ねただけで、芯もなく自己主張する人もいるよね!

「謙虚さ」は日本人の美徳の一つとも言われている。それは決して卑屈になることでも拘泥することでもない。しっかりとした信念のもとに、自己主張することではないか。まあ、このしっかりとした自分ていうのがなかなか難しい。多分一生をかけて、本当の自分を探すんだろうな!(U)

編集後記

美術館や博物館巡りが好きです。

まず、美術館の匂いが好きです。そして好きな作家や作品に出会うと胸がドキドキします。ボストン美術館蔵の尾形光琳作の「松島図屏風」が来日して目にしたときはテンションが上がりました。光琳の国宝の「燕子花図屏風」とも「紅白梅図屏風」とも全然違う斬新さ。かのフェノロサが買ってアメリカに持ち帰ったのでしょうか? 日本に残っていれば良かったのに残念です。でも、その他たくさんの作家の数え切れないほどの心打つ作品。こんな素敵な出会いがあるから美術館巡りはやめられません。

そして一番思うのは、美術館の客層の女性の多さです。みなさん、熱心に作品を見ておられます。わたしのよう一人の方もいます。そんな時に「今はなんて良い時代なのだろう」と思います。女性に選挙権もない頃は、美術館の絵画などを一般の女性が見られたのでしょうか。選挙権同様にたくさんの女性たちの闘いと覚悟があったと思うのは大袈裟でしょうか。いつまでも素敵な作品と出会うことが出来るように。そして自由で平和な日本であるようにと、願ってやみません。

この「きんもくせい」を通じて素敵なあなたにも出会えますようにと、編集部一同願っております。(H)